

# 肘歴通信 第十二號

## 「石抱温泉」のこと

### 秘湯中の秘湯、石抱温泉。

湯壺の傍らにある薬師如来の石碑は、「天明三年建立」(1783)とあり、肘折温泉史話や大蔵村史では、開湯は明和元年(1764)と推測されています。

また明治10年に、当時の内務省が全国の温泉を調査、19年に編纂した「日本鉱泉誌」では、「元文年肘折村醫村井松讚発見」とあり、1736年頃の発見とされている。

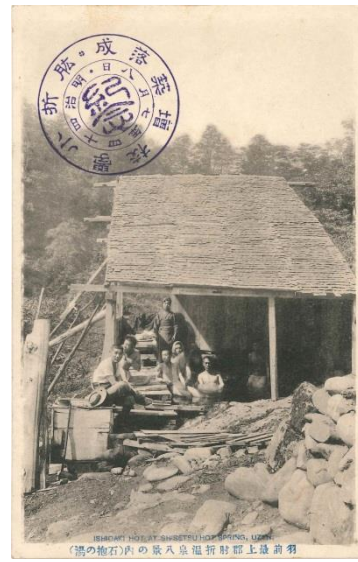
(しかし、年代的に考えると松讚はまだ医師ではなく、父・一角の方が有力だと思います。)

名前の由来は、炭酸の泡で体が浮き上がるので「石を抱いて」入浴した為と謂われていますが、1780~90年頃に詠まれた和歌「肘折八景」では、

石滝：川添への出湯浴人もとむとむと

山をく山にひびく石たき

と、湯壺の前の不動滝を「石滝」と呼称しています。



石抱温泉	海晏山 村支村肘折
○泉質	鹽類泉
○位置景況	肘折ノ村落ヲ距ル南二十町餘ニ連山ノ間烏川ヲ通ス泉ハ川流ノ西北ナル山麓岩石ノ中ヨリ涌出ス巖ヲ鑿テ浴池ト爲シ茅ヲ葺シテ其上ヲ覆フ此地ハ居人ナク年々五月ニ至リ假屋ヲ設ケ浴客ノ便ニ供シ十月降雪ノ候ニ至リテ之ヲ撤ス
○浴客	人員詳ナラス
○發見	元文年肘折村醫村井松讚発見ス

(明治19年刊 日本鉱泉誌)

古くは「石抱八人衆」  
が権利を持って交替で  
湯守をしていたと云い、  
明治 44 年、ゑびす屋に  
集権します。



(奥が湯壺。雪で壊れるため、数年ごとに建物が変わっていく)

その書類には 12 名の名前があり、うち肘折人は 9 名。

原勝太郎・柿崎忠太・八鍬亀蔵・柿崎藤五郎・高山久蔵・  
(山口屋) (郵便局長) (林蔵) (伝蔵) (高嶋屋)

中島喜代吉・横山喜代治・横山仁右衛門・柿崎政蔵。  
(勇蔵) (五兵衛) (ゑびす屋)

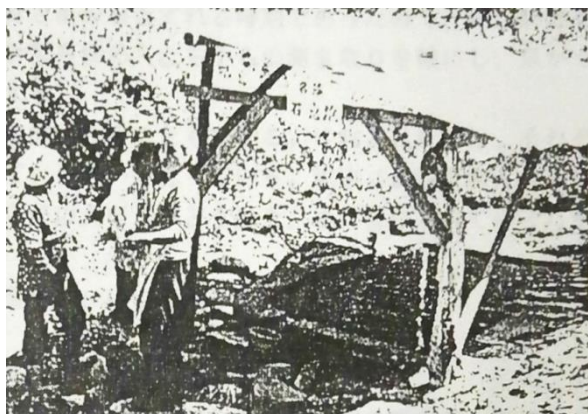
そして、石抱の石碑建立時の天明年間の肘折在家は、  
柿崎忠太を除く 8 名となるので、  
その 8 名が「石抱八人衆」ではないでしょうか。

明治～昭和は「縣下一のラジュウム含有温泉」と謳  
い多くのお客さんが来たが、戦後から 20 年ほど休業。

昭和 42 年頃より、星川ユリ子さんが管理を引き受け、  
再整備して再開したが、肘折発電所の道路整備の為、

客数が減って再び休止。

湯銭 20 円・ラーメン 50 円・  
ビール 100 円だったそうです。



星川ユリ子さんの頃の石抱温泉

肘折歴史研究会